※令和４年度以降入学生用

学校番号	１００１

令和８年度　美術工芸科

教科	芸術	科目	デザインワーク	単位数	２単位	年次	２・３年次
使用教科書	資料プリントなど適時配布						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業ではデザインとは何かという問いに対し､パッケージデザインなどの制作を通して理解を深めます｡授業では色づくりや効果的な配色について考えたり､フォントやロゴマークなどデザインの基礎を学びます。またデザインが現代社会においてどのような働きをしているかを考え、効果的な情報伝達について考察し作品に生かします。平面的な表現だけでなく､プロダクトデザインの要素も含みます。目的に応じた表現方法を考え、個性を生かしたパッケージを作りましょう。

2　学習の到達目標

イラストレーション、色彩構成、ポスター、パッケージなどの制作を通じてビジュアルデザインに関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次の通り育成することをめざす。
(1)視覚的な伝達効果について理解を深めるとともに、専門的な技能を身につけるようにする。
(2)表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を身につける。
(3)ビジュアルデザインの可能性を追求する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・形や色彩の働きを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。 ・表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。	・目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成している。 ・目的や条件などを基に、デザインの社会的な役割について考察して独創的な主題を生成し、主題に応じた表現方法を考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練っている。	・主体的にデザインの表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。 ・社会の問題などデザインで問題解決しようと考えを深めている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期		色彩構成 色の基礎 混色について 配色の工夫	a:色相・明度・彩度やトーンについて理解し、塗り分けることができる。 a:効果的な配色について考えながらレイアウトすることができる。 b:色のトーンや効果について配色カードなどを使いながら塗り進めている。 c:色の作り方について様々な色を混色しながら作ろうとしている。	作品 観察	作品	アイデアスケッチ 作品
		文字について 書体・レタリングの基礎 文字のデザイン スペーシング	a:フォントの種類やレタリングの基礎を理解している。 b:情報伝達において、効果的な文字を選びながら作品を作っている。 C：様々な文字を自分で調べ、主題にあった形やサイズをたくさん試しながら書こうとしている。	作品	作品 アイデアスケッチ	アイデアスケッチ ワークシート 観察
後期		お土産の企画書作成 地域の特色を探求し、イメージ展開を行う (コンセプトを考え、ロゴタイプの制作やイメージカラー、ネーミングなどのプレゼンテーション)	a: 日本のご当地おみやげを企画し、観光地の魅力を色や形、イラストなどで表現することができる。 b:コンセプトにあった色やフォントを考え、企画書に取り入れている。	企画書	プレゼンテーション	相互評価シート

※令和４年度以降入学生用

		パッケージの作成	c:主体的に日本各地の特色や特産品について調査しながらコンセプトを考えようとしている。 a:美しい仕上がりになるように設計図を描いたり。計画を立てて、作業をおこなうことができる。 b:魅力が伝わるようにパッケージの形状やパターンなどを工夫している。 c:アイデアスケッチで商品のコンセプトが伝わるように調査を行っている。	作品	作品 アイデアスケッチ	アイデアスケッチ ワークシート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度